

令和5年度環四国サイクリングプロジェクト（徳島・鳴門・祖谷・阿波踊り編）活動報告

（令和5年度愛媛大学国際連携 学生海外短期派遣・受入プログラム支援事業申請事業、愛媛県後援事業）

【事業概要・目的】

日本と台湾の学生が共に「自転車」というコンテンツを用いて地域の歴史・文化等に触れるフィールドワークを行い、日台間の異同等に目を向けつつ、実社会において有用となるグローバルな感覚や、協働を促進するコミュニケーション・リーダーシップのあり方について実践的に学ぶこととした事業。また、産学官連携事業として、愛媛県が推進する「自転車新文化」を両国の学生たちが広く発信することも目的の一つとしている。今年で6年目を迎える。プログラムは、オンラインによる事前の国際交流を1回実施した後、COVID-19 拡大防止策を徹底し、「徳島・鳴門・祖谷・阿波踊り編」としてリアルな国際交流と、地域の歴史・文化に直接触れるとともに、SDGs の活動を通じて地域への貢献を目指した活動内容にしており、両国学生間の国を超えた「深いつながり」を築く機会とする。

【日時・方法】

（第一回）令和5年7月3日（月）方法：オンライン（ZOOM 接続による同期型）／自宅等からの接続

（第二回）令和5年8月5日（土）～9日（水）場所：徳島県鳴門市・三好市祖谷付近

【実施体制】

主催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室、国立高雄科技大学（台湾・国）

後援：愛媛県 協力：愛媛大学校友会、四国大学、一般社団法人しまなみジャパン、（株）Kai Works

学生リーダー：伊藤薫子（法文学部2年）、サブリーダー：森山真菜（社会共創学部4年）

実施責任担当教員：仲道雅輝（愛媛大学教育企画室 副室長 准教授）、村田晋也（同 講師）、
許宏徳（国立高雄科技大学准教授、愛媛大学客員教授）

【参加者数】

合計：61名（学生54名／四国大学含む）

愛媛大学生：17名（法文4名、社共3名、工学1名、理学3名、農学5名、教育1名）

国立高雄科技大学生：11名 四国大学生：26名

教職員関係者：7名（愛媛大学2名、国立高雄科技大学2名、四国大学2名、しまなみジャパン1名）

【学習成果】

今年は、事前に、オンラインでの交流を1回行い、日台混合チームでの自己紹介や両国の文化を紹介し合うとともに、サイクリングで走行するルートを検討を行うなど、対面での交流をさらに深くすることをねらって、二段階での構成とした。

徳島・鳴門・祖谷・阿波踊り編サイクリングでは、参加者が日台混合5チーム（5～6名／チーム）に分かれ、祖谷付近を自転車で走り、総走行距離40kmを一人も脱落することなく完走証書が授与された。環四国サイクリングプロジェクトでは、これまでサイクリングで訪問することで得た恩恵を地域にお返しするという気持ちで、フォレストグリーン活動を実施した。コース途中では、休憩時に道に落ちているごみを拾い、全チームが協力した。この取組では、日台両国の学生が協力し、SDGsのGOAL12（つくる責任つかう責任）、13（気候変動に具体的な対策を）、14（海の豊かさを守ろう）、15（陸の豊かさを守ろう）の達成に貢献することを目指した。今年初の試みとして、日本文化の体験として、四国大学阿波踊り連の協力を得て、阿波踊りを通じた交流を行った。またその様子は、徳島新聞の取材を受け記事として掲載された。

成果発表会では、プロジェクトの成果として、「日本のことについて聞かれた時に分からなかったこともあったので、まだまだ知らないこともあるなと感じた。日本についても台湾についてもそれぞれの文化についてもっと知りたいと思った。」などの感想が発表された。参加者は、あらためて、対面で経験を共にすることの楽しさや意義を感じた様子であった。また、終了後も、台湾国立高雄科技大学学生らと、SNS上で写真のやり取りを行うなどの継続した交流が行われ、来年の夏には、高知・四万十サイクリングプロジェクトで会うことを約束し散会した。本プロジェクトは、愛媛県が推進する「自転車新文化」を広く発信することも目的の一つとしており、参加学生からは、地域の歴史等への関心が高まり、サイクリングを通しての自転車新文化の裾野の広がりを感じる機会にもなったなどの意見があった。今回の開催は、学外への広報として愛媛県内に加えて、徳島県内でもプレスリリースの発行を行い、愛媛大学生のアクティブな活動を地域に知っていただける機会ともなった。



オンライン国際交流の集合写真



四国大学との阿波踊り交流 1



四国大学との阿波踊り交流 2



大塚国際美術館



日台交流セミナー1



日台交流セミナー2



フォレストアドベンチャー祖谷



サイクリングの様子 1



サイクリングの様子 2



サイクリングの様子 3



サイクリング前の円陣での決起



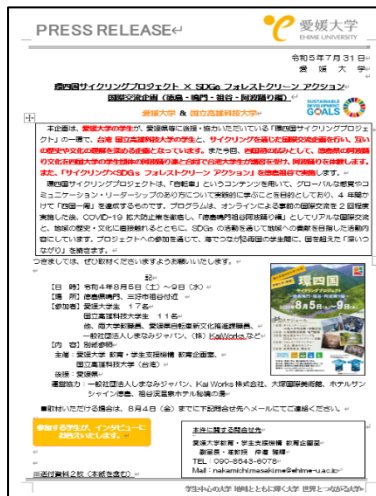
フォレストクリーン活動の様子



各チームからの成果発表の様子



完走証授与後の集合写真



プレスリリース1



徳島新聞掲載記事（2023年8月6日付）
（使用許諾取得済み）

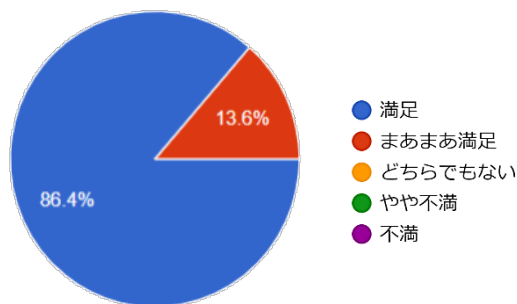


プレスリリース（フライヤー）

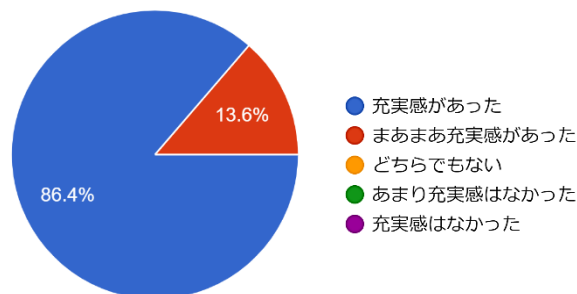
アンケート結果

参加者 28 名（回答数 22 回収率 78.6%）

1. 満足度 (n:22)



2. 充実感 (n:22)



3. プロジェクトに関して、意見や感想（自由記述：抜粋）

1	日本の文化が好きで、こうやって日本の文化を体験できるのは珍しい機会だと思います。とても楽しかったです。そして今まで体験しなかったことを体験できてよかったです。
2	初めは言葉の壁で楽しさが半減したらどうしようかと不安だったが、そんなことは気にしないほどに関係が深くなり、また友達がたくさん増えたことが一番良かった。
3	先頭を入れ替えながら、周りのメンバーの状況を確認しながらサイクリングすることで、チームの絆と団結力が深まった。
4	人の話を真剣に聞くようになった。元々よくわからない話などはあまり聞かなかったが、今回のプロジェクトでみんな必死に伝えようとしてくれて、こちらも全力で聞き取ろう、理解しようという気持ちになった。
5	普段は声が小さいメンバーが、後ろから車が来た時に大きな声で先頭にいる私に声をかけてくれるようになり、それまでの活動中で聞いた事のない大きさの声を出してくれてとても嬉しかった。
6	チームのリーダー、コアメンバーという役割でリーダーシップを発揮できたこと、去年の台湾研修で知り合った台湾の学生に会えたことがよかった。そして、新しい日本の参加者とも仲良くなれたことがうれしかった。
7	他国の人と交流でき、かつ他の学部の人とも知り合うきっかけになったため良かったと思います。協力して活動を行うことで自分を見直すことも出来ました。
8	台湾の学生と交流し、今の自分たちの悩みを共有して相談し合うことができ、どの国の同世代も同じような悩みを抱えていると思った。
9	いい出会いがあって、今までやったことのないことにチャレンジして、美しい景色を見て、有意義な五日間を過ごせました。
10	値段に換えられないような感動する体験ができた。
11	台湾の人との交流で、台湾のことを知れ、台湾に行ってみたいという気持ちが強くなったり、より日本が好きになったりしたことが良かった。また、自分に足りてなかった積極性を出していくタイミングや、出し方などもわかったのが良かった。
12	日本のことについて聞かれた時に分からなかったこともあったので、まだまだ知らないこともあるなと感じた。日本についても台湾についてもそれぞれの文化についてもっと知りたいと思った。
13	今度は自分たちがプロジェクトを運営していく番だと思い、今回のスムーズで、みんなをいい意味で巻き込んだ運営方法を受け継いでいきたい。
14	料理において、ほとんど日本と台湾で調味料が変わらないことや味の素もあること、あまり自炊しないことやきのこの歌が台湾にも流れることなど、幅広く台湾の文化を知ることができた。
15	自分の強みが発揮できた研修であったと思う。周りにも褒めてもらった。研修を通していかに周りを盛り上げるか、母国語が違う人を盛り上げるにはどうしたらいいのかを考え、実践することで少しずつその力をさらに伸ばすことができた。今回は身内でのプログラムだったため伸び伸びできたが、この力をいつでも発揮出来るような絶対的なスキルに変えられるよう今後頑張りたい。
16	コアメンバーやムードメーカーに続くフォロワーシップ、グループでの声かけなどで場を盛り上げるリーダーシップを身につけることができた。悩む前に躊躇せずすぐに行動することができ、後悔が少なかったため、自分で満足できる結果になった。

以上